課題解決型インターンシップ成果報告会

学生の感性で取り組んだ27チーム

川崎市とキャリアデザインセンターが連携して行っている課題解決型インターンシップの成果報告会が11月6日、サテライトキャンパスで開かれた。日髙義博理事長・学長も来場し、27チーム延べ約250人の学生が商店街の活性化や商品開発に取り組んだ成果に耳を傾けていた（学生の体験レポートはキャリアデザインセンターホームページに掲載）。

▲　商店街の皆さんと曽山さんたち

川崎銀柳街の新名物

アップルシナモン味のどら焼き考案

商学部の石川和男ゼミ3年次の曽山彩さん、渡邊明恵さん、木村安里さんは川崎銀柳街商業協同組合からのテーマ「ステンドグラスを生かした商店街のマーケティング」に取り組み、「子どもからお年寄りまで楽しめる新名物をつくって街を活性化させよう」と老舗の和菓子店「仙臺屋総本店」の協力を得てアップルシナモン味のどら焼きを考案した。10月16、17日に行われた同商店街の秋祭りでネーミングの募集を兼ねた試食会を開き、両日とも用意した500個はあっという間になくなった。「銀柳花～アップルとシナモンのハーモニー♪～」とネーミングされた商品は現在1日100個限定販売されている。

「アーケードをイメージした半月形に商店街のイメージであるアイリスの焼き型が押されています。しっとりした生地にリンゴの実の食感とシナモンの香りがあいまって洋風な仕上がりです」と自信をもって話す3人。近日中にはステンドグラスのアーケードをイメージした包装紙も完成する。渡邊さんは「多くのメディアに取り上げていただき、『楽しみにしていた』と来てくださる方々が多く、メディアの影響力を実感しました」、木村さんは「少しずつ課題を解決しながら進んでいく過程を体験できたことは大きいです。商店街のさまざまな世代の人たちと打ち合わせを進めるうちに『発信する力』が身についたように感じています」と話す。

報道リリースの文章を作ったり、阿部孝夫川崎市に試食のお願いをする文章を作ったりした曽山さんは「『学生だからこれくらいでいいだろう』という安易な気持ちではなく、責任をもって取り組まなければという意識になりました。行動力が身についたことがなによりの収穫です」と話してくれた。

環境に配慮した吸盤付きの幼児用食器

「Q-Bambooを商品化

キャッチコピーは「赤ちゃんから子どもデビュー」

経営学部の池本正純ゼミ3年次・鬼澤良輔さん、田中友梨さん、井出光さん、三谷志織さん、楠本純平さんは中原区にある㈱ユニオン産業の課題「環境樹脂の強みを生かした地球にやさしい商品開発」に取り組み、幼児用食器「Q-Bambooo」を商品化した（同社のホームページで販売中）。同社が特許を取得している環境素材「竹粉配合樹脂」の「抗菌性」に注目し、全員で意見を出し合いながら、ターゲット・商品・デザイン・キャッチコピーなどを決めていった。「保育園で園児の食事の様子を観察したり、アルバイト先の子育て中の方に意見を聞いたりしながら、『ひっくり返らず、スプーンですくいやすい形状の吸盤付き食器』を考えました」と三谷さん。中央部のひまわりをデザインした田中さんと井出さんは「ビッグスマイルという品種で、『あなただけを見守っている』が花言葉です。親御さんが子どもを思う気持ちを込めています」と話す。キャッチコピー「赤ちゃんから子どもデビュー」を考えたのは楠本さん。「大人への第一歩として、まずは幼児でも一人でご飯が食べられる子どもになろう！」というコンセプトを表しました。

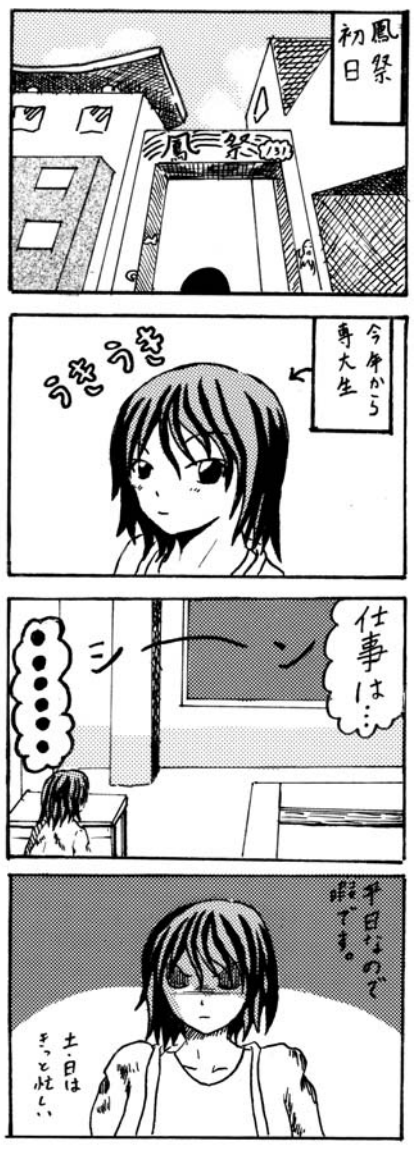
最初のころは意見がまとまらなかったが、食器売り場を回ったり、インタビューしたりするなど行動していくうちに意見が集約されていったという。「自分たちの思いだけではゴールまでたどりつけなかったと思います。さまざまな方のアドバイスやご協力をいただいて商品化までこぎ着けました。今後はお皿やコップなどシリーズ化されればうれしい」と代表の鬼澤さんは話している。

新しい魅力を発見！

パワースポットなどめぐる川崎観光ツアー実施

商学部の前川明彦ゼミ3年次の杉原洋子さんら8人は、川崎市観光協会連合会のテーマ「新しい観光のカタチ　産業観光ツアーの企画とマーケティング」に取り組んだ。「市内の大学にいながらも、意外と知らない『川崎駅周辺』を自分たちの足で歩いて観光スポットを探しました」と杉原さん。縁結びや美人祈願などのパワースポットをめぐり、おせんべいに文字を入れる「デコおせんべい焼き体験」、人気の工場夜景見学などを盛り込んだツアーを10月17日に実施した。和服姿のゼミ生がガイドも担当。学生たちと同世代が多かった約40人の参加者たちからは「親しみをもって説明を聞けた。新しい知識を得られて満足」などと大好評だった。

漫画研究同好会



日本最古の「禅寺丸柿」で商店街を活性化

柿生中央商店会のテーマ「地域資源『禅寺丸柿』を生かした商店街イベントの企画・運営」に取り組んだのは、大川原未久さん（文3）、田中千聡さん（同）、石原達也さん（経営3）松尾拓也さん（同2）。10月17日に行われた禅寺丸柿祭りでスタンプラリーを取り入れるなどして、商店街をめぐる企画を考えた。「恒例となった『種飛ばし大会』や紙芝居『柿まる君のだいぼうけん』は子どもたちに喜んでもらえて大満足です」。

多摩川エコミュージアム

来年も継続

NPO法人多摩川エコミュージアムからの課題に取り組んだメンバー6人のうち、杉山光さん（文3）と目黒貫大さん（同）に話を聞いた。8月7日の「夕涼みコンサート」で、ペットボトルと多摩川で拾った木の枝を飾り付けたフラワーベース（花瓶）を作り、エコはがきや廃油せっけんの作り方を展示するなどの活動のほか、コンサートのイメージキャラクターを募集した。近隣の小学生から107件のデザインが集まり、当日の投票で「アクリ」に決定。「来年は後輩の専大生が実行委員長となって活動することが決まっています。サポーターとしてアドバイスしながら、『アクリ』を広めたいです」。

音楽で盛り上げるイベント

梶が谷駅前通りの「エルカジまつり」

佐藤智之さん（経済2）ら13人が取り組んだのは、梶が谷駅前通り振興会からのテーマ「音楽で盛り上げるお祭り　商店街のイベント・企画運営」。

10月24日に梶ヶ谷第一公園で開かれた「エルカジまつり」のイベント・模擬店の企画や出演者の募集、チラシやTシャツをデザインしたほか、軽音サークル「New Generation」のメンバーとして出演し、祭りを盛り上げた。

MIZUHO　みずほ銀行
Channel to Discovery
あなただけの資産運用を
〈みずほ〉がバックアップ。
豊富なラインアップで、
お客さまの資産運用ニーズに、
〈みずほ〉はおこたえします。
●ご相談はお近くのみずほ銀行へ。

確実にやるのはどこでもできる。
確実に速くやるからこそ「価値」になる。
三井住友銀行
LEAD THE VALUE
SMFG